

下永林遺跡は古代蝦夷の聖地だった

○岩手の古代文化

お葬式の方法は家族や地域が代々共有する文化です。古代（奈良～平安時代）、7世紀後半頃から9世紀半ば頃の盛岡周辺の人々は、ムラのリーダーや本家の父が亡くなると、土を盛り上げた古墳（墳墓）を作り葬りました。棺には武器や農具などの鉄製品、玉類も納められ、土器がそなえられました。この時期に古墳を作る風習は、全国的にはほとんどみられず、北東北独特の文化でした。

○下永林遺跡の古墳群がつくられた社会

当時の北東北の人々は、都の人たちから「蝦夷（えみし）」と呼ばれ、天皇を中心とした国の範囲外でした。蝦夷は親族関係にもとづくムラに住み、力を持った家父長的なリーダーに率いられた「部族社会」で、そのムラごとに政府と交流したり敵対したりと、様々な様子でした。

政府は、蝦夷も国家に組みこむため各地に「城柵」という役所をつくりました。城柵には兵を配置し、蝦夷を招待し酒宴でもてなし仲間にする儀式などが行われました。市内下太田にある国史跡「志波城跡」は、延暦 22（西暦 803）年に桓武天皇の命を受けた坂上田村麻呂が造営した古代陸奥国最北に位置した最大級規模の城柵跡です。当時、坂上田村麻呂は国の東北経営最高責任者で

した。彼は、東南北部や関東からの移民と蝦夷を同化する以前の方法ではなく、蝦夷のムラや文化はそのままにリーダーたちとともに地域を治めようとしたようです。

そのため、下永林遺跡の古墳も志波城造営後にも作られ続け、8世紀後半～9世紀半ばまでの間に約40基も作られたのでしょう。

○下永林遺跡の古墳群

下永林遺跡の古墳に葬られた人は、百目木・西鹿渡・高櫓A・荒屋遺跡など、近くのムラのリーダーや家父長たちだと考えられます。このようなリーダーは各地におり、やがて政府から村長や役人に任命されたり、城柵で働き力を持つたりする人たちがでてきました。これが後に岩手県域の権力を握った安倍氏や秋田県域の清原氏、平安時代末に平泉を拠点に東北地方を治めた奥州藤原氏の源になったのでしょう。下永林遺跡の古墳群は、この地域に蝦夷勢力がいた証拠となる貴重なものと言えます。

現地に遺構は無くなりますが、この発掘調査成果は調査報告書にまとめ、文化財の記録として保存されます。

区画整理された新しい街が、約千二百年前の人達の聖なる場所だったことを多くの人に知っていただき、この土地の歴史を語り継いで欲しいものです。



下永林遺跡の位置と周辺の遺跡分布図

文化財保護法にもとづき、盛岡市の都南中央第三地区土地区画整理事業に伴い、2016年度から2024年度まで下永林遺跡の発掘調査を行いました。このパンフレットは、この調査成果の概要を報告するために作成しました。

下永林遺跡ガイドパンフレット

初版 2023年3月27日・第2版 2026年1月30日

編集・発行：盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13-1 電話 019-635-6600

古代蝦夷の聖地

下永林遺跡

下永林遺跡は、盛岡市津志田・三本柳地内にあります。いくつかの塚があった場所として大道西古墳群とよばれ、80年以上前に畑から蕨手刀という鉄の刀が出土したことで知られていました。

新しいまちづくりをすることになり、その工事で地中に残っている遺跡がこわれる前に発掘調査をおこなったところ、1300～1200年前(奈良～平安時代)のたくさんの古墳の跡がみつかりました。

そのころに近くに住んでいた人たちにとって、特別な場所だったことがわかりました。



みずいろの部分古墳をかこんでいた溝です。



直径3～10mほどの丸い溝の中に土を盛りあげた古墳が重なり合わず40基もありました。



古土器出土の様子 溝の中から古墳におそなえされていた土器が見つかりました。転がりおちて、われたのでしょう。



当時の貴重品ガラスのビーズもありました。



土坑墓の実測図



直刀出土状況



おそなえされていた土器 われて見つかった土器をくっつけて復元しました。この土器に何をいれておそなえしていたのでしょうか。底に穴のあいた土器もありました。古墳におそなえするために、穴をあけるおまじないをしてからおそなえされたものです。

蕨手刀 わらびてとう

(市指定文化財・大道西古墳(下永林遺跡)出土・個人蔵)
昭和10年頃、畑から出土したという鉄の刀。

蕨手刀とは、持つところが蕨の芽のようにまるくなっている約1350～1200年前ころの刀です。すべて鉄でつくられ、持つ部分には紐や布をまいて使っていたようです。全国から250点以上見つっていますが、多くは東北地方から見ついています。



(盛岡市遺跡の学び館に展示中)

○盛岡周辺の主な蝦夷の墳墓（末期古墳）

・墳丘が現存するもの

- 市史跡 高館古墳群（上飯岡・8世紀）
- 県史跡 藤沢狄森古墳群（矢巾町藤沢・7世紀後半）

・現在は地表から見えないもの

- 永井古墳群（玉山永井・8世紀後半～9世紀）
- 上田蝦夷森古墳群（黒石野・7～8世紀）
- 太田蝦夷森古墳群（上太田・8世紀）
- 宿田遺跡（北夕顔瀬町・8世紀）
- 飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡（飯岡新田・8～9世紀）



太田蝦夷森古墳出土 勾玉 太田蝦夷森古墳出土 ガラス玉 太田蝦夷森古墳出土 帯金具

地面をほったただけのお墓（土坑墓）もありました。土の中で骨や木の棺はくさってなくなり、長く残ることは、ほとんどありません。



上空から見た下永林遺跡

丸くみえるのが古墳（墳墓・円形周溝ともいわれる）の跡です。

およそ 100m四方の場所に密集しています。

1200 年ほど前は、丸くほられた溝の中に土を盛りあげた小山のような古墳が、ぜんぶで 40 基ほどありました。古墳は地域のリーダーや本家のお父さんなどが亡くなった時に、とてもいねいに葬った特別なお墓です。

しかし長い年月がたち、おまいりする人もいなくなり、雨や雪で土が流れ、後の人々が畑や家を作ったため、古墳はくずれてしまいました。このために畑から蕨手刀が出土し、土を盛りあげた塚があったという伝えが残ったのでしょうか。

発掘調査では、地中に残っていた古墳をかこんだ溝やそこに流れ込んだおそなえものなどがみつかりました。

この場所には、奈良～平安時代をとおしてムラが作られることはありませんでした。

リーダーや先祖たちが眠る大切な場所だったのです。

- ① 周辺より小高いこの場所をえらんで古墳が作られたようです。葬られた人は周辺のムラのリーダーです。
- ② 古墳がある場所を、おおきくかこむようにのびる溝がありました。先祖が眠る大切な場所とわかるような目印にしたのかもしれない。
- ③ 古墳の溝を上から見ると、Cと（）の2種類があります。溝がとぎれたところはお参りやおそなえ物をおく場所だったのでしょうか。
- ④ 溝の途切れたところの前に、そこをさえぎるように短い溝がほられたものもあります。
- ⑤ 古墳の北側には、土坑墓がありました。どこにどんなお墓を作るのか、場所を区別しました。



【平安時代初期頃の蝦夷の古墳想像断面図】

直径 3～10m ほどに墳丘を作り、木の棺に遺体と副葬品（一緒に棺に入れる物）を入れ、墳丘内に埋葬しました。周囲には溝（周溝）が掘られます。

上のふたつの想像図は、手描きのイラストを元に AI で生成した物です。



【南西から見た復元想像図】

遠くに山々を望み、奥には百日木や西鹿渡のムラが見えます。手前には古墳の場所を区画する溝があります。大小様々な古墳は、重なり合うことなく密集しています。



②古墳群の北縁→を区画する溝

①周辺よりやや高いところにあります。

⑤古墳と別な場所に土坑墓があります。

③古墳を囲む溝はC・（）の2種類

③（）の形

③Cの形

③（）の形

③Cの形

③Cの形

↑④途切れたところの前に掘られた短い溝

②古墳群の南縁を区画する溝

鹿妻堰水路

鹿妻堰は江戸時代に雫石川の水を水田に引くために作られた水路。今もほぼ同じ場所を水が流れ、盛岡南部の水田をうるおしています。

至 国道4号線 岩手飯岡駅入口交差点

見前中学校

盛岡南消防署

至 JR岩手飯岡駅

※発掘調査時の空中写真を合成したものです。

